

福島第一原子力発電所 測定・確認用設備A系統から採取したALPS処理水の分析結果と2024年度第2回放出開始予定日について

< 参 考 資 料 >
2024年5月15日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- ALPS処理水について、2024年度第2回放出に向けたJ4エリアL群、J9エリアA群及びB群から測定・確認用設備A群への移送を2024年3月14日に完了しました。また、2024年3月18日から測定・確認用設備A群の循環・攪拌運転を実施し、2024年3月25日に試料採取を行い、採取した試料の分析を行っています。
- 2024年度第2回放出は、5～6月の間で実施する予定であり、分析結果を得られ次第、開始する予定です。

<4月25日までにお知らせ済み>

- 採取した試料の分析結果から、放出基準を満足していることを確認しました。
 - ① 測定・評価対象核種（29核種）：告示濃度比総和「0.17」（1未満を確認）
 - ② トリチウム：17万ベクレル/ℓ（100万ベクレル/ℓ未満を確認）
 - ③ 自主的に有意に存在していないことを確認している核種（39核種）：全ての核種で有意な存在なし
 - ④ 一般水質（自主的に水質に異常のないことを確認）（44項目）：基準値を満足
- 外部機関（化研）の測定結果※も同様で、放出基準を満足していることを確認しました。
- これを踏まえ、5月17日より、測定・確認用タンクA群からのALPS処理水の海洋放出（2024年度第2回放出）を開始することを予定しています。引き続き、ALPS処理水の安全な海洋放出を安定的に実施できるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

※ ①測定・評価対象核種（29核種）、②トリチウム、③自主的に有意に存在していないことを確認している核種（39核種）を測定

【参考】処理水ポータルサイト「測定・確認用設備の状況」ページ



- 測定・確認用設備、A・B・Cタンク群のALPS処理水の分析結果（トリチウム濃度・トリチウム以外の放射性物質の告示濃度比総和）を掲載しています。

「ALPS処理水 海洋放出の状況」の画面イメージ



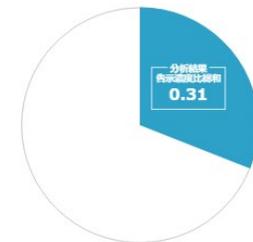
「測定・確認用設備の状況」の画面イメージ

測定・確認用設備の状況

測定・確認用設備は、タンク10基（合計容量約10,000m³）×3群に分け、それぞれ「受入」、「測定・確認」、「放出」の3工程をローテーションしながら運用します。



ALPS処理水の測定結果(2024年4月17日) → 放出基準を満足していることを確認しています



トリチウム以外の放射性物質の濃度
告示濃度比総和 **0.31** < 規制基準 **1**

※自主的に有意に存在していないことを確認している核種は、全ての対象核種で有意に存在していないことを確認しました。

トリチウム濃度 **19万Bq/L**
100万Bq/L未満であることを確認しました。

※ALPS処理水でトリチウム濃度が高いものは、時差経過に伴う放射線の自然減衰を考慮し、放出開始の段階で放出することとしています。これを変動計画上、100万Bq/Lを上限として示しています（トリチウム濃度が低いものから順次放出）

※上記のトリチウム濃度は、トリチウムの告示濃度限度（60,000Bq/L）に対する比（希釈前の告示濃度比）で< 3.17>ですが、海洋放出時は大量の海水で希釈することで規制基準を満たします（740倍で希釈した場合で、トリチウムの告示濃度比は< 0.0043>）

当社委託外部機関（化研）の測定結果

- ▶トリチウムの濃度：19万Bq/L
- ▶トリチウム以外の放射性物質の告示濃度比総和：0.30

📄 データの詳細はこちら

📊 告示濃度比総和：1

■ 処理水ポータルサイト 測定・確認用設備の状況

<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/measurementfacility>

